

第6回鳥取県ふうせんバレーボール大会 ローカルルール 競技上・審判上の確認事項

- ◎コート:バドミントンの外側ライン。サービス(アタック)ライン=ネットから2.5mのライン
- ◎メンバー構成:ハンディープレイヤー=3~5名。
アドバンテージプレイヤー=1~3名 合計6名とする。
- ◎接触回数:全員(6名)が触れ、10打以内に相手コートに返球する。
- ◎ボールのアウト・イン:接地点がライン上であればインとする。
ネット上を通過して返球されればインとする。
コート外の床、人、物にボールがふれた場合はアウトとする。
- ◎ゲーム進行:コートキャプテンのジャンケンでサーブ権を決めておく。
両チーム主審側からゼッケン順でサービスラインに沿って整列する。
原則として1・3・5番をハンディープレイヤーとする。
主審のホイッスルで挨拶し、ゲームに入る。
(ゲームの進行は主審が行う、プレイヤー等の判断でプレーを止めない。)
- ◎サーブ:2本以内にネットに触れずに相手コートに打ち込む。
車椅子使用者は、サービスラインより前でサーブを打ってもよい。
また、サーブトス・サーブ後1打のアシストを受けることができる。
互いのチームが、得点に関係なく順番にサーブを打つ。
- ◎レシーブ・パス・返球:
全員が接触し、10回以内であれば、同一競技者は2回までプレーすることができる。
(審判は全員が触れたかを確認する。)
 - ・同一競技者が連続して触れることは出来ない。
 - ・一連の動作の中でのダブルタッチは、主審の判断によりOKとする。
 - ・ラリー中に車椅子等にボールが触れた場合はカウントしない。
- ◎アタック:ゼッケン番号1・3・5の選手しかできず、立位者は原則としてアタックライン後方から打つ。ジャンプしてのアタックはできない。
- ◎反則について
 - ・全員が触れる前に相手コートに返した場合……ナットオール
 - ・10打以内に相手コートに返球できない場合……オーバータイム
 - ・一人の競技者が連続してボールに触れた場合……ドリブル
 - ・ボールを持ったり、運ぶようなパスをした場合……ホールディング
 - ・サーブやアタックをジャンプして行った場合……ジャンプアタック
 - ・ボールを操作するためにネットに触れた場合……タッチネット
 - ・相手コート上でボールに触れた場合……オーバーネット
 - ・サーバーやアタッカーがサービスライン=アタックラインを踏んだり、踏み越したりしてプレーをした場合……オーバーライン

◎ゲーム終了:10分の試合時間又は15得点先取のラリーポイント制。
サーブラインに整列し、向かい合う選手と握手をしゲーム終了。

◎勝敗:リーグ戦の順位の決定

①勝ち数の多いチーム ②得失点差が大きいチーム ③総得点の多いチーム ④抽選
試合時間終了時点で同点の場合

・リーグ戦は引き分けとする。

・トーナメント戦は抽選とするが、決勝戦は試合を止めずに1点差がつくまで続ける。
試合を棄権した場合は、0対15の負けとする。

補足説明

*複数競技者が同時に触れた場合・・・それぞれのカウントとするが、次のボールは誰が触れても良い。

*ドリブル・・・2度打ち、明らかに両手ばらばら、身体に当たってから打つ。

*フォールディング・・・手に乗せ運ぶ、つかむ、ネット・身体で挟み込む。

*アタック・・・相手コートに打ち込む行為を全てアタック。

●アドバンテージプレイヤーがネットより高い位置から、ネット通過時水平より鋭角に
打ち込んだ場合はアタックと見なして反則とする。